

リーダーに続け！集落みんなで取り組むイノシシ対策

県北農林事務所農業振興普及部

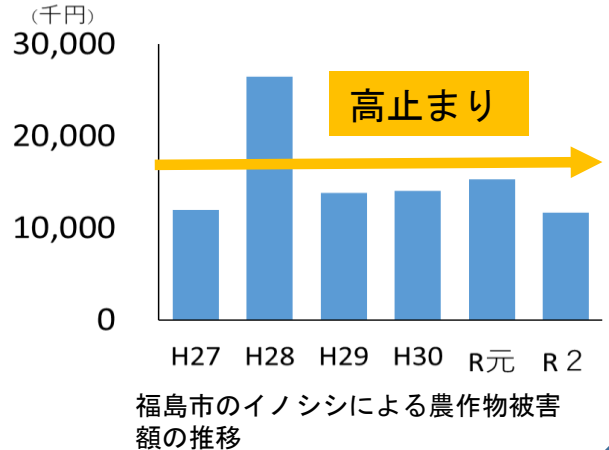
1 背景・ねらい

(1) 背景

- ・イノシシによる農作物被害は高止まりの状況
- ・特に中山間地域では、環境、労力面で被害防止が困難
- ・鳥獣被害が地域活性化を阻害し悪循環

(2) ねらい

- ・住民が主体的に総合的な対策（生息環境管理、被害防除、捕獲に関する取組）を実施するモデルを育成
- 管内への波及と被害減少を目指す



2 活動内容

(1) 対象集落、関係機関等への働きかけ（R3）

- 「イノシシ対策は行っているが被害が止まらない」
「被害が続けば、営農や集落活動の維持が難しくなる」
「被害を防止するにはどうしたら良いのか？」



○現状確認（聞き取り・現地調査等）

- ・傾斜地多い
- ・遊休農地（藪化）多い
- ・担い手は少なく高齢化
- ・イノシシ対策は各々が自己流で実施
- ・電気柵は設置しているが効果なし
- ・水稻作付け面積の4割に被害
- ・住民主体の総合的な対策を希望

集落住民を参集し
情報共有・意識醸成

モデル集落として
取組支援を開始！

集落の
現状を踏まえた
取組の提案

○支援体制の構築

関係機関・団体による
集落支援の役割分担を提案

集落

- ・集落の状況等の把握
- ・対策の実施

大学（専門家）

- ・技術的な助言
- ・データ解析
- ・情報提供

普及

- ・集落、関係機関・団体との調整
- ・集落の対策実施に関する立案・実施支援
- ・集落の対策リーダー育成

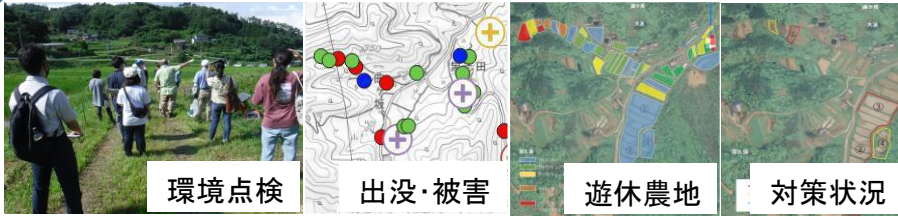
市

- ・イノシシ捕獲に関する情報提供

J A

- ・集落取組の情報発信

(2) 集落の取組支援 (R3~R5)



現状把握

- ・住民が自らの目で集落の状況を確認
- ・情報を地図に落とし込み、集落で情報共有



専門家の講義

知識・技術習得

- ・イノシシの生態
- ・適切な電気柵設置等

- ・集落みんなで対策の検討
- ・対策実施をリーダーが主導!



効果検証、課題抽出

- ・集落で実施した取組による効果を確認
- ・取組の中で発生した問題を課題化

課題

複雑な地形、
侵入リスクの
高い場所での
電気柵設置

農繁期の
対策徹底

など



電気柵設置実習

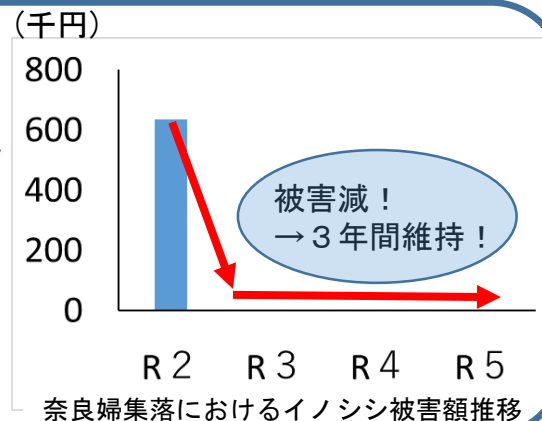
日	場所	内容
10/1	山田	電気柵設置
10/2	山田	電気柵設置
10/3	山田	電気柵設置
10/4	山田	電気柵設置
10/5	山田	電気柵設置

対策スケジュール、
チェックリスト

課題への対応を提案
次の取組に反映!

3 活動成果

- 集落の対策実施体制構築
 - ・集落代表がリーダーとなり対策の実施を主導
 - ・集落住民が自ら考え対策を実施
- 生息環境管理
 - ・藪化した遊休農地の除草を実施 (約6a)
 - ・緩衝帯整備の取組実施に集落が合意
- 被害防除
 - ・電気柵設置・管理技術及び意識の向上



4 今後の活動

- ・緑肥作物を利用した遊休農地管理の効果検証
- ・里山林整備事業を活用した緩衝帯設置の取組支援
- ・モデル集落の成果発信による他地域への横展開